

農業を守る

リポーター 富樫 昌幸 (板 沢)

大館の

農業を守る

今回は富樫リポーターが、農業経営などについて勉強を続けているグループ「耕和会」をリポート。片岡リポーターは、貴重な考古資料などが公開展示されている総合歴史センター(仮称)取材しました。

こういう試練を乗り越えていくことによって一人前の農業生産者になっていくのかもしれない。そこで今回は、農業を専業とし、これからの農業経営について研究を続けているグループ「耕和会」を紹介します。「耕和会」は、真

昨年は、私たち農家にとってこれまで経験したことのないいろいろな出来事がありました。降ヒヨウによる被害と冷害に見舞われ、天災の恐ろしさを感じました。そう思っていたら、加えて米の部分輸入自由化の波が押し寄せてきました。私たち農業生産者にとって、平成五年は忘れられない年になりましたが、



「耕和会」の人たちと富樫リポーター(右から三人目)

中地区板沢に住む三十歳代から四十歳代前半までの五人でつくっているグループです。メンバーは、果樹栽培専門、水稲栽培専門、畑作専門とみんなそれぞれ自分の得意な分野を持っています。それぞれ力をいれています。みんなに共通する作物は、水稲と山の芋で、お互いにライバル意識を持ちながら栽培技術を磨きあっています。また「耕和会」のメンバーは、勉強して得た技術、知識を集落の人たちにも教えることで、板沢地区全体の農業生産がレベルアップして

ほしいと思っています。最近では、「耕和会」の活動一つひとつが集落の人たちの注目を集めるようになりしました。「耕和会」のみんなは、これからもお互いに協力しながら研鑽を重ね、板沢の農業、ひいては大館市の農業を守っていくんだという意気込みを持って、がんばっていきたくと話しています。

「旬」を大切に作る農業に

これからの農業は、消費者のこ

歴史センターを訪ねて

リポーター 片岡 英子 (下代野)

県の文化財

「鋒形石器」を展示

市では、総合歴史センター(仮称)(旧東高校跡地)の平成八年度建設オープンを目指しています。完成まで、市内各地から出土した考古資料などを整理し、その一部を展示していると聞いて訪ねました。

総合歴史センターには、今から約二万年から一万五千年前の石器をはじめ、めずらしい土器類など三百五十点余りが展示されています。展示されている資料は、県の文化財に指定されている「鋒形石器」をはじめ、貴重なものばかりです。整理を終えたものはほんの一部で、同センターには未整理の

とを考えた農業でなければならぬと思います。農業をいっぱい使って生産性を上げることばかり考えた、色や形だけ追求したりするのでなく、本当に良いものを消費者に届けるんだという意識を持つことが大切だと思います。それから、最近「旬」の味がなくなつたとよく言われますが、四季折々の「旬」の野菜や果物を食べてもらって、本当の味を知ってもらおうような努力も必要だと思います。

が短かったといいますが、栄養分を逃がしてしまつたあとの肉などを食べていたので、長生きのためのエネルギーが足りなかったんでしょうか。

ものがまだたくさんありました。盛んに整理を進めていましたが、早く見てみたいものです。大館では、再三にわたる大火のため明治のころの大館を知る資料が少ないそうですが、大館の呉服商「マルコ」の主人小野儀助の日記が発見され、当時の様子を知る貴重な資料となったといっています。この日記をはじめとした古文書なども展示されています。

生活様式を変えた土器

縄文時代の人々は、動物の肉や魚などは焼いて食べていたそうですが、焼くと栄養分をたっぷり含んだ汁がばたばたと落ちますから、随分もったいないことをしていたようです。当時の人は今より寿命



文化係長の説明に耳を傾けて

総合歴史センター建設にあたっては、展示室や調査研究室整備のほか、周囲を散策できるようにしたり、弁当を広げてゆっくりつるげる広場などを造ったりすればいいと思いました。